

## ◆基本方針

現在本学は、「大学運営の基本方針」に基づいて策定された「立教大学の行動計画」に取り組んでいます。2013年度予算においては、遂行する業務内容と必要予算の精査、不確定な予算の削減、過年度の予算執行実績の参照などによって予決算差異を縮小し、大学全体の戦略的課題に優先的に取り組むための予算を確保・配分できるように努めました。ことに政策的な予算については、「立教大学の行動計画」の内容を実行するために、総長提案分と各部局提案分の二つに分け、大学全体で取り組む体制を維持しています。この予算編成方針により次の重点課題を積極的に推進していきます。

### 【重点課題】

#### ①グローバル人材育成

- ・グローバルリーダーシッププログラムの展開
- ・国際協力人材育成プログラムの展開
- ・短期留学プログラムの開発 等

#### ②学士課程統合カリキュラム

- ・カリキュラム運営体制の設計
- ・学修支援に関する制度設計 等

#### ③東日本大震災復興支援

- ・復興支援体制の強化
- ・ボランティア等による被災地支援 等

#### ④研究の側面支援

- ・研究推進、支援
- ・個人研究の環境整備
- ・外部資金の獲得と学内助成の充実 等

#### ⑤就職・キャリア支援

- 学部キャリアサポーターの各学部設置 等

## ◆主要事業計画

2013年度においては、上記【重点課題】に取り組むと共に次の事業にも注力していきます。

### 施設の建設、教育環境の改善・充実

- ・新チャペル会館建設
- ・新座キャンパス室内温水プール・陸上競技場等の建設
- ・耐震対策
- ・施設環境整備  
(教室改修・省エネ対策・バリアフリー等)
- ・キャンパス周辺土地の購入 等

### 広報戦略の推進

- ・入試関連広報
- ・海外広報 等

### 財政基盤の強化

- ・財政基盤強化のための各種施策の実施と  
特定資産の充実

# ◆消費収支予算書の概要

## 1. 消費収入について

### ①学生生徒等納付金(授業料・入学金等)

2012年度の入学者(学部)から、入学金を7万円減額した一方、授業料を1万円増額、教育充実費を3万円増額(ただし、現代心理学部については5千円増額)しました。2013年度は学費改定の学年進行により、学生生徒等納付金全体としては前年度比で4,500万円増加となっています。

### ②手数料(入学検定料等)

受験生の増加を見込み、入学検定料が5,500万円増加、手数料全体としては、前年度より8,700万円増加となっています。

### ③補助金(国庫補助金等)

新たな外部資金の獲得や、私立大学等経常費補助金(国庫補助金)の増加が見込まれるため、全体としては前年度より3億7,400万円増加となっています。

### ④帰属収入合計

前年度比5億8,200万円増加し、285億5,100万円となる見通しです。また、帰属収入から基本金組入額43億7,100万円を差し引いた消費収入は、前年度比48億5,500万円増の241億8,000万円となっています。

## 2. 消費支出について

### ①人件費(教員人件費・職員人件費等)

予算差異の大きかった人件費については、2011年度決算額を勘案した予算計上とした結果、前年度比1億5,400万円減少での計上となっています。

### ②教育研究経費

各種施設の整備・充実に伴う維持費の増加や奨学金の充実などにより、前年度に比べ7億2,700万円増加となっています。

### ③管理経費

施設修繕費は減少する一方、旅費交通費や委託費の増加のため、全体としては前年度比800万円の増加となっています。

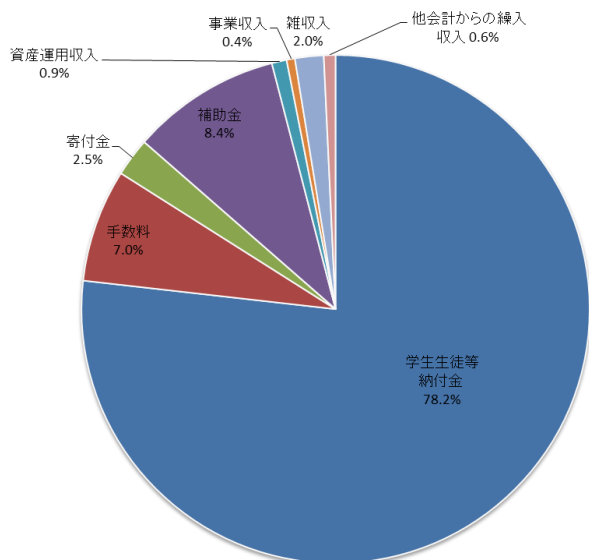
### ④借入金等利息

2012年度に竣工し、池袋図書館や研究室として利用されているロイドホール(18号館)ですが、その建設のために行った借入金の利息返済が2013年度から始まるため、前年度比6,800万円の増加となっています。

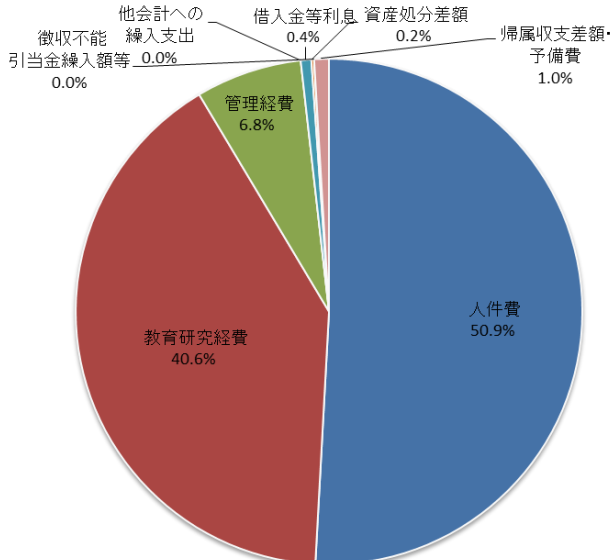
### ⑤消費支出合計

前年度比5億9,600万円増の285億3,300万円となっています。

《帰属収入の構成》



《帰属収入に対する消費支出の構成》



## ◆資金収支予算書の概要

消費収支と重複するものについては説明を省略し、資金収支特有の内容について説明します。

### 1. 資金収入について

#### ①借入金等収入

施設整備のための借り入れですが、ロイドホール（18号館）や池袋中高・大学共同利用の総合体育館であるポール・ラッシュ・アスレティックセンターの完成により、大型施設の建設が一段落したため、2013年度において新規借り入れは行いません。

#### ②前受金収入（授業料前受金収入・入学金前受金収入等）

2014年度入試にかかる新入学生の入学金、授業料など学生生徒等納付金が主なものですが、前年度比500万円減少となっています。

#### ③その他の収入（学院本部預け金回収収入等）

ロイドホール（18号館）やポール・ラッシュ・アスレティックセンターなどが完成したため、前年度比212億500万円の減少となります。なお、「その他の収入」および「その他の支出」は、効率的な資金管理運用を行う目的で学院本部との間で行う預け金の出し入れが主な構成要素となります。各種支払いを行う際には、学院本部で合同運用している資金から大学へ資金を戻して支払いを行うため「その他の収入」に計上し、一方、大学から学院本部に資金を預ける際には「その他の支出」として計上しています。

### 2. 資金支出について

#### ①施設・設備関係支出（建物支出・教育研究用機器備品支出等）

ロイドホール（18号館）やポール・ラッシュ・アスレティックセンターなど各種施設が完成したため、合計で前年度比71億8,200万円の減少となっています。

#### ②その他の支出（特定目的引当資産学院本部預け金等）

前述の学院への預け金が主なものであり、将来の施設設備の整備や教育研究環境の向上、財政基盤の強化などを目的として、奨学基金や建設資金などの主な各種引当特定資産に36億300万円を、また第三号基本金には7,000万円を継続して積み増しします。

#### ③次年度繰越支払資金

施設・設備関係支出等各種支出を抑えた結果、前年度比6億8,000万円増の43億1,600万円となっています。

### 3. 前受金保有率について

前受金保有率（次年度繰越支払資金を前受金で割った比率）が104.2%となっており、資金繰りに問題はないと言えます。